



スーパー グローバル ハイスクール

# 佐高 SGH通信 2020

No. 28 (令和3年1月18日発行)

## SGH クラブ国内研究班

### (財) 慈濟 (Tzu Chi) 慈善事業基金会 インタビュー

12月22日火曜日、英語演習準備室にて、アジア最大のボランティア団体(財団法人)台湾慈濟慈善事業基金会日本支部の陳量達氏による、同基金会の日本国内及び世界における活動に関する講話と国際ボランティアに関するインタビューが行なわれました。佐野高校 SGH クラブ国内研究班から4名の生徒が参加して、同基金会の活動内容やボランティアに参加するに当たっての留意点について陳氏にインタビューを行い、さらに自分たちの研究について陳氏からたくさんの貴重なアドバイスをいただきました。

☆ 生徒たちのインタビューの様子です



☆ 慈済基金会 陳氏にインタビューを行なった SGH クラブ国内研究班の皆さんの感想です!!

実際に、運営側に運営に携わらなければ分からないようなことを、陳さんのお話で知ることができました。特に、他のボランティア団体との協力によって、迅速に動くことができるということが心に残りました。教えていただいたことを参考にしながら、自分たちの研究を進めていきたいと思っています。

《高 2-1 岩地 優》

今までは、ボランティア団体の方が行なっている具体的な活動などの知識をテレビやインターネットで得ることしかできませんでしたが、今回陳量達氏に質問させていただくことで、より深く災害ボランティアや避難所について知ることができました。今回のインタビューで得たことを今後の研究に取り入れ、現在の研究をより良いものにしていきたいと思います！

《高 2-2 赤塚 真理》

自分は避難所を主軸に研究してきました。しかし陳さんのお話を伺い、今までとは別の視点から自分たちの研究を見直す良い機会となりました。これからの研究では JVOAD(全国災害ボランティア支援団体ネットワーク)と避難所の繋がりなどに焦点を当てていきたいと思っています。《高 2-3 猪瀬 遥大》

今回の陳さんのお話で、慈済基金会が世界中で行なっている慈善事業について詳しく知ることができました。ボランティア団体が避難所の意思を尊重して接すること、避難所へのアプローチの際に苦勞したことなど、避難所の運営と繋がる点がいくつか発見できました。本日学んだボランティア団体側が持っている意見も頭に入れながら研究を進めていきたいと思っています。

《高 2-4 青山 怜慈》

